

呼吸器センター

1. スタッフ

センター長（兼）病院教授 木田 博
 その他、特任教授 1 名、准教授 1 名、病棟事務補佐員 1 名（平成 31 年 4 月 1 日よりセンター長（兼）教授 新谷 康）

2. 診療内容

平成 24 年度より東 7 階病棟にて呼吸器センターが開設され、呼吸器内科・呼吸器外科の入院患者を集約化し治療を行っている。センター内にはリハビリ室も完備しており、慢性呼吸不全患者、周術期の低肺機能患者に対して専任の理学療法士が呼吸リハビリテーションを行っている。

(1) 呼吸器内科

入院診療の主な対象疾患は、肺癌・気管支喘息・間質性肺炎・呼吸器感染症・慢性閉塞性肺疾患であり、全体の 2/3 を肺癌が占めている。いずれの疾患も、最新のエビデンスに基づく標準的診療を行うよう努めている。それに加え、大学病院の使命である“新たなエビデンスを発信する”ための先進的診療にも力を注いでいる。具体的には、肺癌を対象に、関連施設と協力して多施設共同臨床試験を行うことで（大阪肺がん研究グループ：OSAKA-LCSG）、その成果を論文・学会発表で発信している。また、基礎研究の成果に基づくトランスレーショナルリサーチにも積極的に取り組み、自主臨床研究として適格症例に対する検査や治療を行っている。さらに、臨床研究中核病院、AI ホスピタル、癌ゲノム拠点としての呼吸器センターの責務を果たすため、OCR ネット（大阪臨床研究ネットワーク）を阪大の呼吸器関連病院に拡大した。本システムにより、電子カルテと連動した治験や臨床研究による臨床データの収集を省力化・効率化が可能であり、次世代医療を見据えた環境を整備中である。

呼吸器外科と呼吸器内科が共通の病棟で診療する事により、様々なメリットが生まれ、診療内容の充実・発展に寄与している。その好例として、入院患者の呼吸器リハビリテーションが挙げられる。呼吸器外科・呼吸器内科・看護部・リハビリテーション部の職員からなる合同呼吸リハビリ・チームが結成され、周術期患者・慢性閉塞性肺疾患患者の呼吸リハビリを行っている。毎週行われるカンファレンスの検討結果を反映させ、効率的できめ細やかなリハビリテーションが実現されている。

(2) 呼吸器外科

原発性肺癌、転移性肺腫瘍、気腫性肺疾患、縦隔腫瘍、重症筋無力症に対する胸腺腫摘出、呼吸不全に対する肺移植、気管狭窄に対するステント治療などの手術を行っている。

比較的早期の肺癌には低侵襲を考慮して完全胸腔鏡下の肺葉切除術あるいは肺機能温存のための縮小切除手術を、進行癌では呼吸器内科・放射線科と治療計画を立てて拡大切除を含めた集学的治療を行っている。また良性縦隔腫瘍と重症筋無力症に対しては、術後 QOL にも考慮し積極的に内視鏡を用いた低侵襲手術を行い、平成 26 年から呼吸器領域でもロボット支援手術を導入し、平成 30 年 4 月より縦隔腫瘍に対して保険診療で実施している。また移植医療の分野では、平成 30 年には 4 例の脳死肺移植術を施行し、これまで脳死肺移 49 例と生体肺葉移植 11 例、心肺同時移植 3 例の計 63 例の実績がある。

3. 診療体制

病棟体制 病床数 49 床（移植患者対応無菌室 2 床、陰圧室 1 床を含む）

(1) 呼吸器内科

- 1) 病床数は 30 床、病棟担当医は複数主治医体制をとっており、病棟医長、シニアライター 2 名（教官）、ジュニアライター 5 名、研修医 1~4 名でチームを組んでいる。
- 2) 呼吸器内科スケジュール
 検査入院は原則的にクリニカルパスを運用し、効率的に行っている。X 線透視下気管支鏡検査：放射線部（月・木曜日 午後）、CT ガイド下経皮生検：放射線部（月・木曜日 午前）。

(2) 呼吸器外科

- 1) 病床数は 19 床（責任病床 15）。研修医 0~2 名、専攻医 2 名、医員 2 名のうち、研修医 1 名と医員 1 名の 2 名が受け持ち医となり、さらに常勤医（科長、副科長を含む）6 名が診療を担当する。
- 2) 呼吸器外科スケジュール
 呼吸器外科症例検討会、科長回診は毎週月曜日の午前に行っている。気管支鏡検査は月曜日午後、手術は火曜日から木曜日まで行っている。外来は月曜日から金曜日（移植外来は金曜日午後）に行っている。

(3) 合同カンファレンス

呼吸器外科・呼吸器内科・放射線診断科・放射線治療科による合同カンファレンスを、毎週月曜日に行っており、検査・治療方針につき検討する。

4. 診療実績

(1) 呼吸器内科

1) 平成 30 年度の年間入院患者数は 760 名であった肺癌患者の外來化学療法への移行を積極的に進め、平均在院日数の短縮に努めている。入院患者の過半数は肺癌患者であるという傾向は不変である。治療/検査目的の対象疾患は以下の通りであり、昨年の実績を上回った。

治療入院	肺癌	367
	間質性肺炎	54
	呼吸器感染症	53
	閉塞性肺疾患	12
	その他の疾患	41
	計	527
検査入院	気管支鏡検査(生検)	209
	CT ガイド下生検	21
	その他	3
	計	233

先に述べた呼吸器リハビリ(リハビリテーション部所属の理学療法士が呼吸器センターにて実施)に関しては、地域医療と連携して在宅診療を推進し、QOL の向上に努めている。

近年、他科入院中の症例に対して、共観として診療に携わる機会は益々増えている。とりわけ、重症疾患症例に生じた呼吸不全や重症肺炎、救命センターからの重症例の受け入れなど責任病床を遥かに上回る疾患の担当に従事している。

(2) 呼吸器外科入院診療実績

年間入院延べ患者数は 5,862 名で、平均在院日数 16.9 日であった。平成 30 年度は 363 件の全身麻酔下手術を行った。

主要疾患の年間手術数

原発性肺悪性腫瘍(肺癌)	131
転移性肺腫瘍	35
縦隔腫瘍(含、重症筋無力症)	61
良性腫瘍・感染症など	2
肺移植	4
気胸、膿胸、その他(生検含む)	130
計	363

5. その他

(1) 呼吸器内科

日本内科学会(認定内科医 26 名、総合内科専門医 9 名)

日本呼吸器学会認定施設(専門医 18 名、指導医 3 名)

日本呼吸器内視鏡学会(専門医 5 名、指導医 2 名)

日本がん治療認定医機構(認定医 5 名)

日本臨床腫瘍学会(がん薬物療法専門医 1 名)

(2) 呼吸器外科

日本外科学会施設認定(指導医 3 名)

胸部外科学会施設認定

日本呼吸器外科学会施設認定(専門医 6 名)

日本移植学会移植認定医制度(認定医 3 名)

日本がん治療認定医機構(認定医 8 名)